

所属	人間社会学部／公共社会学科	職名	講師	氏名	阪井 裕一郎
----	---------------	----	----	----	--------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

愛知県出身。慶應義塾大学文学部卒業、慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程修了。博士（社会学）。慶應義塾大学、津田塾大学、立教大学などで非常勤講師、日本学術振興会特別研究員PDを経て、2017年4月より本学に着任。

専門は社会学、特に家族社会学・歴史社会学・質的調査研究。これまでおこなってきた主な研究内容は、1) 近代日本の家族・結婚に関する歴史社会学的研究、2) 事実婚や同棲といったパートナー関係に関する質的調査研究である。最近は、家族をこえて実践される共同生活に関心を持っている。北西欧社会に目を向ければ、従来の家族関係とは異なる多様なケア関係や共同生活が実践されており、家族研究の分野でも同棲（cohabitation）やレズビアン・ゲイカップルによる子育て、シェア居住等の多様な家族実践に注目が集まっている。現在は、こうした新たな家族や共同生活について国内外でフィールド調査・インタビュー調査をおこなっている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

<著書>

阪井裕一郎，2021，「第2章 家族をめぐる概念とその変容」「第7章 家族と暴力」山口美和編『社会学と社会システム』ミネルヴァ書房。

エリザベス・ブレイク，2019，『最小の結婚——結婚をめぐる法と道徳』久保田裕之監訳，白澤社。（共訳：阪井担当「第7章 最小結婚——政治的リベラリズムは婚姻法にいかなる影響を及ぼすのか」、「第8章 最小結婚実現に向けた課題——貧困・財産・一夫多妻」）

阪井裕一郎，2019，「公共圏と家族」「世界の中の家族：家族のグローバル化」『よくわかる家族社会学』ミネルヴァ書房。

<論文>

阪井裕一郎，2020，「事実婚と『承認』——非法律婚カップルへのインタビュー調査から」『社会分析』社会分析学会，第47号，61-78.

阪井裕一郎，2018，「脱家族化と再家族化——少子化対策の正当性について」『家族研究年報』家族問題研究学会，第43号，53-62.

阪井裕一郎，2017，「マイホーム主義を問いなおす——ホームと連帯の再構築へ」『三田社会学』三田社会学会，第22号，55-75.

<研究ノート>

堤圭史郎・坂無淳・阪井裕一郎，2021，「福岡県内自治体の男女共同参画推進状況——政策意思決定・行政組織・地域自治への女性参画に着目して」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第29巻2号，61-74.

### ②その他最近の業績

<評論等>

阪井裕一郎，2020，「ジェンダー平等を阻む『家族主義』の諸相」『三田評論』2020年4月号。

阪井裕一郎，2017，「変化するパートナー関係と共同生活——家族主義を問う」*Synodos* (<https://synodos.jp/society/20198>)

阪井裕一郎，2017，「学びなおしの5冊〈家族〉」『 $\alpha$ -Synodos』第223号。

渡辺秀樹・阪井裕一郎，2017，「特集『〈家族主義〉を超えて——戦後70年の家族と連帯』に寄せて」『三田社会学』第22号，1-2.

<書評>

阪井裕一郎, 2021, 「書評: 宮坂靖子著『避妊言説と家族の親密性——日本型近代家族の歴史社会学』」『比較家族史研究』第35号.

<学会報告>

阪井裕一郎, 「家族社会学者に学ぶ 家族・ジェンダー」日本家庭科教育学会近畿地区会, 大阪府立男女共同参画・青少年センター, 2019年8月17日.

坂無淳・阪井裕一郎・堤圭史郎, 「福岡県における地方自治体のジェンダー政策——男女共同参画推進体制の類型化」西日本社会学会第77回大会, 佐賀大学, 2019年5月25日.

阪井裕一郎, 「家族をめぐるリベラルの内なる対立——家族概念の再検討へ」2018年度第1回シノドス国際社会動向研究所研究会, 北海道大学東京オフィス, 2019年2月.

<討論者>

2017年度家族問題研究学会大会シンポジウム「家族研究と政策提言——少子化対策に焦点をあてて」2017年度家族問題研究学会大会, 早稲田大学, 2017年7月.

③過去の主要業績

<著書>

阪井裕一郎, 2017, 「多様化するパートナーシップと共同生活」永田夏来・松木洋人編『入門 家族社会学』新泉社, 133-149.

阪井裕一郎, 2015, 「親密性の変容」(p291)「親密圏」(p297)「家族の友人化/友人の家族化」(p297-8)「対抗的公共圏」(p298)比較家族史学会編『現代家族ペディア』弘文堂.

阪井裕一郎, 2014, 「『独身者』批判の論理と心理——明治から戦時期の出版物をとおして」椎野若菜編『境界を生きるシングルたち(シングルの人類学1)』人文書院, 165-186.

阪井裕一郎, 2013, 「居場所を求める若者/受験競争する若者——インタビュー調査にみる日韓の学校生活と友人関係」渡辺秀樹・金鉉哲・松田茂樹・竹ノ下弘久編『勉強と居場所——学校と家族の日韓比較』勁草書房, 120-149.

阪井裕一郎, 2012, 「アトミズム/ホーリズム」(pp20-21)「価値付与/価値剥奪」(p194)「ソキエタス」(p822)見田宗介(編集顧問)・大澤真幸・吉見俊哉・鷲田清一編『現代社会学事典』弘文堂.

<論文>

阪井裕一郎・本多真隆・松木洋人, 2015, 「事実婚カップルはなぜ『結婚』するのか——結婚をめぐる差異化と同一化の語りから」『年報社会学論集』関東社会学会, 第28号, 76-87.

阪井裕一郎, 2013, 「家族主義という自画像の形成とその意味——明治・大正期における知識人の言説から」『家族研究年報』家族問題研究学会, 38号, 75-90.

阪井裕一郎, 2012, 「家族の民主化——戦後家族社会学の〈未完のプロジェクト〉」『社会学評論』日本社会学会, 第249号, 36-53.

阪井裕一郎, 2009, 「明治期『媒酌結婚』の制度化過程」『ソシオロジ』第166号, 89-105.

<調査報告書>

阪井裕一郎, 2014, 「インタビュー調査にみる事実婚と同棲の現状」松木洋人・阪井裕一郎・本多真隆『法律婚をこえた共同性とケアの実践——事実婚と同棲の事例からみる家族の現在』第一生命財団調査研究報告書, 38-67.

阪井裕一郎, 2014, 「欧米における同棲(cohabitation)の研究動向」松木洋人・阪井裕一郎・本多真隆『法律婚をこえた共同性とケアの実践——事実婚と同棲の事例からみる家族の現在』第一生命財団調査研究報告書, 3-15.

阪井裕一郎, 2011, 「現代青少年の友人関係の構造と類型——首都圏とソウルでのインタビュー調査を中心として」 渡辺秀樹編『青少年の社会化ネットワークと教育達成に関する日韓比較研究』平成20～22年度科学研究費（基盤研究B）研究報告書, 82-108.

<国際会議>

Sakai, Yuichiro, "Civilization and Familism in Modern Japan: Focusing on Institutionalization of Marital Norms" GCOE-CGCS Global Seminar: Civil Society, Governance and Democracy, Department of Government, Uppsala University, Sweden, 2009.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会学会、日本家族社会学会、家族問題研究学会（企画委員会委員）、関東社会学会、比較家族史学会、西日本社会学会

6. 担当授業科目

公共性の社会学・2単位・1年・前期  
家族社会学A・2単位・2年・前期  
家族社会学B・2単位・2年・後期  
コミュニティ論・2単位・2年・後期  
地域社会分析法A・2単位・3年・前期  
社会調査実習・4単位・2年・通年  
公共社会学研究Ⅰ・1単位・3年・前期  
公共社会学研究Ⅱ・1単位・3年・後期  
卒業論文・6単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

家族問題研究学会 『家族研究年報』専門査読委員  
後藤寺駅前整備基本コンセプト検討部会 副会長  
家族問題研究学会 企画委員会委員  
田川市都市再生整備計画事業評価委員会 委員

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等